

全国大学生天然ガストラックマーケティングコンテスト 受賞報告

第14期 佐藤 祐菜

◆全国大学生天然ガストラックマーケティングコンテストとは…？

全国大学生天然ガストラックマーケティングコンテストとは、公益社団法人日本マーケティング協会が主催するビジネスコンテストです。第3回となる今年度、第14期生有志メンバーがチームを結成し、優勝を目指して参加しました。小野ゼミが、全国大学生天然ガストラックマーケティングコンテストに出場するのは、今年度が初めてでした。

今年度の課題は、「大型の天然ガストラック（メーカー量産車）を、日本において普及させるための効率的なマーケティング戦略の立案」でした。そこで、私たちのチームは「あいトラ～出会い×家族愛～」というビジネスプランを提案し、全国予選を通過し、全国第3位という結果を残すことができました。



◆発表の概要

私たちのチームは、大型の天然ガストラック（メーカー量産車）を、日本において普及させるためのマーケティング戦略を考えました。私たちは、トラックドライバーとその家族をターゲットとし、「出会い×家族愛」というコンセプトで、「あいトラ」というスマートフォンアプリの開発を提案しました。大型天然ガストラックドライバーは、このアプリを使用することで、仕事に対する楽しさやプライドを取り戻すことができる、というものです。

8月から準備をし始めたこの大会は、書類審査を通過したチームが決勝大会に進み、プレゼンテーション



プレゼンに臨む著者（右端）

を行うことができるというものでした。私たち第14期生は、三田論を抱えながら本コンテストに参加しました。予選では、提案するビジネスプランの概要をWordファイルのA4で3枚とパワーポイント10枚程度にまとめ上げ提出しました。決勝大会では、予選を突破した8チームが一同に介し、大型天然ガストラックの普及のためのビジネスプランを、多数の審査員と大勢の聴衆の前で発表しました。

私のチームは決勝大会に進むことができ、決勝大会においては、パラパラ漫画を交えた130枚ほどのスライドと、演劇を交えた発表をし、会場にいる皆さんを笑顔にすることができました。その結果、私たちのチームは第3位という結果を残すことができました。

◆発表後記

本コンテストを終えた感想は、「楽しかった」の一言に尽きます。そもそもトラックに対しての興味など全くなかった私たちが、「大型天然ガストラックを日本に普及させなければ」という使命感にこれほど駆られるようになるとは、プロジェクトを立ち上げた当初は、考えてもいませんでした。「天然ガストラックについて何も知らないし、正直トラックに対して興味もそこまでないけれど、せっかくだし出してみようかな」というのが正直な気持ちでした。

プロジェクト立ち上げ当初、「天然ガストラックって何？天然ガスって何？」という疑問を解決すべく、私は必死に天然ガストラックについて調べました。すると、最初は全くと言ってよいほど天然ガストラックに対して興味を抱いていなかった私も、いつの間にか、街で天然ガストラックを見つけると、テンションが上がってしまい、写真を撮るほどになっていました。そうして、天然ガストラックに興味を抱き始めた私の心の中に、「大型天然ガストラックを日本に普及させなければ」という使命感が生まれました。けれど、使命感が生まれたのは良いものの、大型天然ガストラックドライバーの気持ちになるのはとても難しく、何度も小野先生のところへ行き、ご相談に乗っていただき、プランの根幹から詳細に至るまで多大なアドバイスを頂きました。また、プランだけでなく、予選で提出する資料についても、小野先生から多大なアドバイスを頂き、その結果、なんとか予選を突破することができました。その後も、「聞き手の心に訴えかけることができるようなプレゼンをして、優勝する」という目標を掲げると、小野先生や先輩方に何度も添削していただきながら、プレゼンテーションの準備を進めました。そして何度も練習を重ね、迎えた本番当日。トラック野郎になりきって寸劇を展開した結果、発表チームの中でも一番盛り上がるプレゼンテーションを行うことができました。練習の成果は全て発揮することができました。結果は第3位と、優勝には至らずとても悔しい気持ちで一杯でしたが、やり切ったという思いと、楽しかったという思いは他のチームの誰にも負けていない自信はあります。楽しくやり切ることができたのは、小野ゼミの皆さんのサポートのおかげです。どんなに忙しい時でも、プランやプレゼンテーションの指導を手厚くしてくださった小野先生、小野先生のお力添えがなくては、ここまでたどり着くことができませんでした。本当にありがとうございました。そして、ゼミ以外の時間もたくさんのアドバイスをしてくださった先輩の方々、本当にありがとうございました。



懇親会場にて受賞スピーチを行う著者（右）